



星襄一《森に棲む月》1957 木版画

生誕110年 木版画家 ほし じゅういち 星襄一 展 I

— 光を求めて —

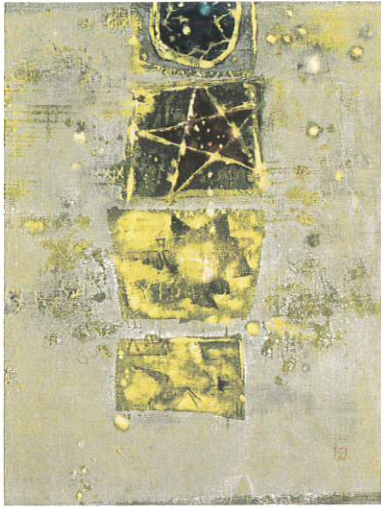
2023年

4月1日[土]～6月4日[日]

▶開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで） ▶休館日：火曜日
▶入館料：一般500円、小・中学生200円 ※団体（20名以上）各50円引き
※障がい者手帳（ミライID含む）提示で各100円引き

星と森の詩美術館 

〒948-0101 新潟県十日町市稲葉1099-1 TEL 025-752-7202
<http://www.hoshi-uta-m.jp> FAX 025-752-7203



《春の星座》1966 木版画

1957(昭和32)年、星襄一(1913-79)は東京で木版画家として歩み始めました。前年に武蔵野美術学校(現 武蔵野美術大学)を42歳で卒業、その後独習した木版画。稼業を捨てた星には、もはやその道しかありませんでした。

先の見えない闇の中、悲壮な覚悟を持った門出に支援の手を差し伸べたのが、同年8月十日町市の有志が立ち上げた「星襄一後援会」です。この会で頒布したとみられる作品に同年の《森に棲む月》があります。シンプルな刀の彫りで表された森の中を彷徨うような月の姿が、迷いを抱える当時の星自身の姿に重なり、森の木々は月を閉じ込める檻のようにも見えます。

星は、その後しばらく時流に乗った抽象作品も手掛けましたが、「絵は誰にもまずわかって頂かねばならないという反省から、徐々に抽象表現から離れつつ自分の道を模索してきました」と述懐しています。1965(昭和40)年、迷いの雲間から現れたのは自身の姓の「星」、幼い頃に故郷で見た「こわいような満天の星空」への憧憬という原点回帰でした。星をテーマとすることで、光の表現が始まります。星の遊び心が星々の輝きを生み出し、星々は光を放ちながら連なり、星座を形作り、やがて銀河となって地上へ降りていきます。

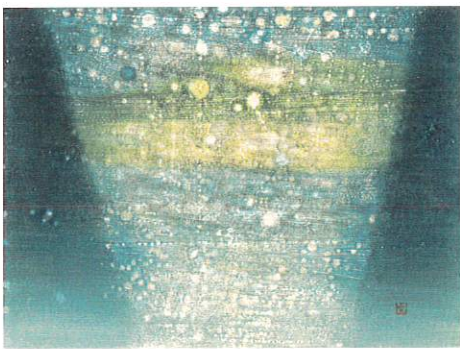
1970(昭和45)年には、1957年の《森に棲む月》の版をバーナーで焼き、さらに版を加えるなどして新作として発表しています。ここにおいて、月もはや森に潜んではいられないほど皓々と光を放ち、縛られるものなど一切ありません。

銀河とともに地上へ降りて来た星の視線。地上に光をもたらすのは星だけではなく、太陽の光がありました。茜色の雲がたなびく金色の空を背景に赤く染まる木々、1971(昭和46)年に発表されたこの鮮烈な《赤い木》から樹のシリーズは始まります。地上で「星」と同じ思いを託せるモチーフとして登場した「樹」。地上に降り来ることで太陽の光を手に入れ、さらに金銀箔を効果的に用いることで星襄一の「樹」は唯一無二の表現を手に入れたのです。

遅い出発から20年余、一気に駆け抜け約400点もの作品を残した星襄一。今展では、自身を信じ、光を求めて道を探り続けた星の姿を、約50点の作品を通して追っていきます。

星 襄一 (ほし・じょういち)

- 1913 9月27日 新潟県北魚沼郡小出町(現 魚沼市)に生まれる
- 1931 3月 新潟県立六日町中学校(現 六日町高校)卒業
9月 台湾総督府台南師範学校に入学
- 1932 8月 台南師範学校演習科卒業以降13年間台湾で教職に就く
- 1946 3月 故郷へ引き揚げる
夫婦で謄写版印刷業「北光社」を営み 孔版画の勉強を始める
- 1948 ・第16回日本版画協会展に孔版画《八海山》入選(東京都美術館)
以降'53年まで孔版画を出品
- 1949 ・第17回日本版画協会展で根市賞受賞(東京都美術館)
日本版画協会会友推挙
- 1952 日本版画協会会員推挙
この頃 武蔵野美術学校(現武蔵野美術大学)の通信教育を受ける
- 1953 9月 東京の煉林商店より『孔版カット歳時記1〜5・附録』刊行
- 1956 3月 武蔵野美術学校西洋画科卒業
以後、木版画を独習する
- 1957 ・第25回日本版画協会展に木版画を出品(東京都美術館)
以降'77年まで木版画を出品
十日町市で「星襄一後援会」発足 版画の頒布等で支援を受ける
- 1958 十日町合成工業(株)のデザイン指導に招かれ、「スノリア」
(合成樹脂による工芸的製品)製作に携わる
- 1959 ・第33回国画会展に木版画《水》出品 国画賞受賞(東京都美術館)
国画会会友推挙
- 1960 国画会会員推挙('76年退会)
・第2回東京国際版画ビエンナーレに出品(東京国立近代美術館)
'62年第3回、'64年第4回展も出品
- 1965 十日町市の江戸屋織物(株)の依頼で 木版による手摺り塩瀬帯製作に携わる
- 1966 ・「日本現代版画展」に出品(ジュネーブ/スイス)
以降、日本現代版画を紹介する海外展に多数出品
- 1973 ・個展開催(東急百貨店本店/渋谷) '78年まで毎年開催
- 1975 ・「星襄一 個展」開催(豊清堂画廊/銀座) '77年も開催
・第1回日本縦断星襄一木版画展開催 '78年も開催
- 1976 ・「星襄一 木版画展」全国7都市で開催
'77年は6都市、'79年は3都市で開催
・「星襄一 自選展」開催(和光/銀座)
- 1979 6月17日 逝去 満65歳
10月 「星襄一 遺作展」開催(十日町市博物館)
11月 『星襄一 自選作品集』刊行(阿部出版)



《銀河ラプソディ》1970 木版画



《森に棲む月》1970 木版画



《赤い木》1971 木版画

2023年展示予定 6月9日[金]-7月30日[日]

- ▶ 十日町石彫プロムナードの作家たち2023
～ 宮澤光造・塚本悦雄・吉村貴子 ～
- ▶ 没後10年 人間国宝 天田昭次 展(仮題)

8月4日[金]-10月1日[日]

- ▶ 生誕110年 木版画家 星襄一 展 II
— 夜をめぐる —
- ▶ 館蔵刀剣展(仮題)

10月6日[金]-11月30日[木]

- ▶ 木村繁之 木版画展(仮題)

星と森の詩美術館



- 開館時間：9:30～17:00(入館は16:30まで)
- 休館日：火曜日
- 入館料：一般500円、小・中学生200円

〒948-0101新潟県十日町市稲葉1099-1 TEL 025-752-7202 FAX 025-752-7203 <http://www.hoshi-uta-m.jp>

[交通アクセス] ◆ JR飯山線・ほくほく線「十日町駅」より車で10分

- 関越自動車道「越後川口IC」より R117経由25分
- 北陸自動車道「柏崎IC」より R252経由50分
- 関越自動車道「六日町IC」より R253経由35分
- 北陸自動車道「上越IC」より R253経由70分

